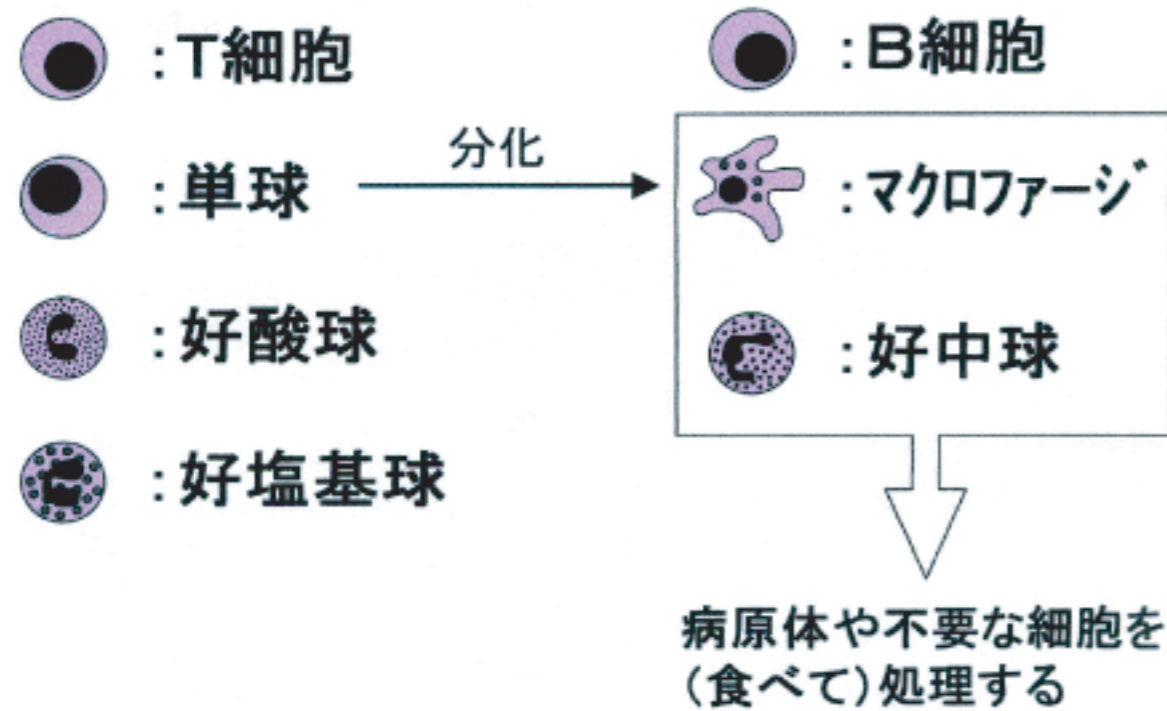


白血球と免疫

白血球で大切なのが免疫細胞の質と量です。
栄養バランスと腸の健康が最大のカギです。

生体内の免疫機構には白血球が中心的役割を果たしています。

白血球には様々な種類があり、これらが実に巧妙に連携しあって体を疾患から守っています。この中でもマクロファージ(単球)と好中球は白血球全体の約75%を占め、防御作用の実戦部隊であることから、この白血球を活性化させることは免疫力の強化を意味します。



資料中では免疫力(マクロファージの活性度)をTNF- α の産生(分泌)能力で評価しています。TNF- α とは、マクロファージが産生するサイトカインの一種で、ガン細胞を死に至らしめる作用を持った生理活性物質です。

EC-12乳酸菌死菌体が免疫力に関するメカニクです。

毎日の生活習慣があなたの体質を作ります。

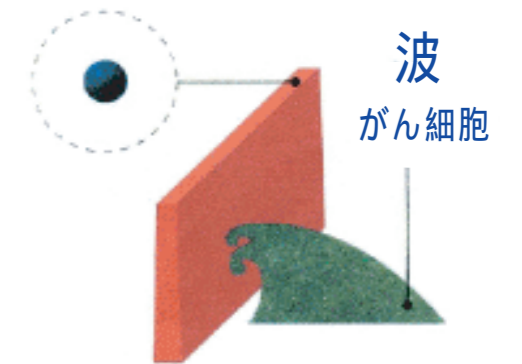
がんは
毎日5000個
発生すると
いわれています。

■NK細胞の活躍

ナチュラルキラー細胞(NK細胞)はリンパ球の1種ですが常に体内をパトロールしガン細胞を見つけ次第その場で破壊して健康を守っています。
たとえば、がんを波にたとえます。「防波堤」が免疫力にあたります。免疫力の主役は、NK細胞ですがこのNK細胞のパワー(防波堤)が高ければがんにはなりません。

「がんとNK細胞の関係」

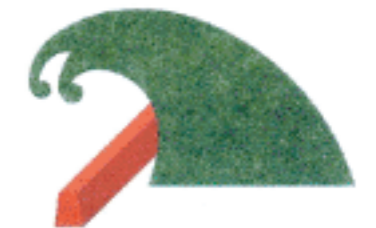
防波堤 NK細胞



1. NK細胞の活性が高ければがんの波が押し寄せてきても免疫の防波堤を越えず、がんは増殖しません。



2. しかし、NK細胞の活性はストレスや他の病気薬剤の副作用など、さまざまな原因で下がることがあります。つまり、防波堤がもろくなったり、崩れたりするわけです。また、異常に強い、がんの高波がくることもあります。ひとたび、がんの勢いが強くなり、免疫を上回るとがんは体内でどんどん増殖します。



3. さらに、がんは自分が生き残るため体内の免疫を抑えようとします。

大切なのがNK細胞の質と量です。
あなたは、今最善の対策をしていますか？